

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年8月10日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 シーマ

コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 白石 幸栄

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 資本政策部長

(氏名) 花岡 直樹

TEL 03-3567-8098

四半期報告書提出予定日 平成21年8月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	2,639	△2.3	△154	—	△162	—	△219	—
21年3月期第1四半期	2,700	—	63	—	54	—	19	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
22年3月期第1四半期	△1.19	—
21年3月期第1四半期	0.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
22年3月期第1四半期	9,269	5,457	58.9	29.70
21年3月期	9,451	5,856	62.0	31.87

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 5,457百万円 21年3月期 5,856百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
21年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	0.00	—	1.00	1.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
第2四半期	6,376	9.2	183	△34.2	164	△37.1	85	△27.3	0.46
連結累計期間	12,938	7.4	506	△30.6	469	△33.0	254	△32.6	1.38

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、6ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、6ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第1四半期 183,765,644株 21年3月期 183,765,644株

② 期末自己株式数 22年3月期第1四半期 676株 21年3月期 672株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第1四半期 183,764,972株 21年3月期第1四半期 183,765,031株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用に当たっての注意事項などについては、6ページ「【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日～平成21年6月30日）におけるわが国経済は、輸出や生産の一部に持ち直しの兆しが見られたものの、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界同時不況により、雇用情勢、個人消費、設備投資などは、依然として厳しい状況が続きました。

民間調査機関によると、平成21年のブライダルジュエリー市場規模は、前年比で3.6%縮小すると推計されており、景気動向に遅れて推移すると目されるブライダルジュエリー販売も、依然厳しい業況が続きました。

このような経済状況のもと、当第1四半期連結会計期間における当社グループ（当社および連結子会社）の連結業績は、売上高26億39百万円（前年同四半期比2.3%減）、営業損失1億54百万円（前年同四半期は営業利益63百万円）、経常損失1億62百万円（前年同四半期は経常利益54百万円）、四半期純損失2億19百万円（前年同四半期は四半期純利益19百万円）となりました。

なお、大幅な減益要因は、消費低迷による売上高の伸び悩みと、当第1四半期連結会計期間より退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更したことに伴い、67百万円の特別損失を計上したことなどによるものです。

当第1四半期連結会計期間における事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

<ブライダルジュエリー事業>

当社グループの主力であるブライダルジュエリー事業（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド等）の業績は、消費低迷の影響を受け、売上高25億73百万円（前年同四半期比1.4%減）、営業損失1億48百万円（前年同四半期は営業利益65百万円）となりました。

当事業の販売・サービス別においては、ファッションジュエリー販売の売上は60百万円（前年同四半期比26.3%増）と好調に推移したものの、ブライダルジュエリー販売の売上は24億41百万円（前年同四半期比2.4%減）と減少しました。

前連結会計年度に引き続き、経費削減と業務の効率化に全社を上げて取り組みました。

また、前第4四半期連結会計期間より全社で推進している集客増への取組みなどの効果が現れたことや、積極的な販売促進活動を展開したことなどにより、当第1四半期連結会計期間における受注額は、前年同四半期に比べ、約1億円増加しました。しかしながら、前連結会計年度末の例年を下回る受注残高の影響を受け、売上の増加には貢献できませんでした。

なお、当第1四半期連結会計期間の売上総利益率は、68.0%と前連結会計年度に引き続き高い水準を維持しました。

当第1四半期連結会計期間におけるブライダルジュエリー事業の主な施策などは、以下のとおりです。

1) 新店舗開設

4月4日 「ホワイトベル 横浜店」を開設（オリジナルオーダーを特徴とする同ブランドとしては、銀座本店、名古屋店に続く3店舗目の開設）

2) 商品力強化

当第1四半期連結会計期間に、次の新商品を発表しました。

（銀座ダイヤモンドシライシ）

4月23日 15周年記念新作リング“Opera（オペラ）”を発表

4月29日 新作エタニティリング“Carrelet（カルレ）”を発表

3) 集客力強化

独自のノウハウをもとに開始した集客活動を全国各地で実施しました。

4) 提携先ホテル・式場数の増大と提携関係のさらなる強化

5) ギフト販売の堅調な伸び

提携先数の増加などによる販売網の拡充により、売上は前年同四半期比で4.5%増の47百万円となりました。

6) ティアラ・レンタルサービスの好調な伸び

当第1四半期連結会計期間末における提携先数は前連結会計年度末より12社増加し、売上は前年同四半期比で247.2%増の約9百万円となりました。

<ウエディングプロデュース事業>

ウエディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの当第1四半期連結会計期間における業績は、売上高66百万円（前年同四半期比27.0%減）、営業損失5百万円（前年同四半期は営業損失2百万円）となりました。

①ブランド別売上高

事業の種類別セグメントの名称	ブランドの名称など	当第1四半期連結会計期間(千円) (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	前年同四半期比 (%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	1,515,905	92.4	57.4
	エクセルコダイヤモンド	894,396	113.0	33.9
	ホワイトベル	154,680	93.7	5.9
	その他(注)2	8,616	69.4	0.3
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘(注)3	66,236	73.0	2.5
合 計		2,639,834	97.7	100.0

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。
 2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部売上など本社関連の売上となっています。
 3. 「オリーブの丘」は、株式会社トゥインクルスターのブランド名です。
 4. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

②販売・サービス別売上高

事業の種類別セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第1四半期連結会計期間(千円) (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	前年同四半期比 (%)	構成比(%)
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	2,441,856	97.6	92.5
	ファッションジュエリー販売	60,896	126.3	2.3
	ギフト販売	47,960	104.5	1.8
	ウエディング送客サービス	11,739	100.8	0.5
	その他(注)2	11,146	375.0	0.4
ウエディングプロデュース事業	ウエディングプロデュースなど	66,236	73.0	2.5
合 計		2,639,834	97.7	100.0

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。
 2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。
 3. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産の部)

流動資産は、現金及び預金や受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べて2億79百万円減少して63億74百万円となりました。また、固定資産は、レンタル用ティアラなど有形固定資産の増加や、退職給付債務の算定方法を、簡便法から原則法に変更したことに伴う繰延税金資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べて97百万円増加し、28億94百万円となりました。この結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて1億81百万円減少し、92億69百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、短期借入金、1年内返済予定の長期借入金などの増加や、未払法人税等の減少により、前連結会計年度末に比べて29百万円増加して30億91百万円となりました。固定負債は、長期借入金の増加や、簡便法から原則法に変更したことに伴う退職給付引当金の増加などにより、前連結会計年度末に比べて1億86百万円増加し、7億20百万円となりました。この結果、当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億16百万円増加し、38億11百万円となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、四半期純損失および剰余金の配当の結果、利益剰余金が前連結会計年度末に比べて4億3百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて3億98百万円減少し、54億57百万円となりました。

結果として、自己資本比率は58.9%となり、当第1四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は29円70銭となりました。

当第1四半期連結会計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は6億14百万円となり、前連結会計年度末に比べて2億90百万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、2億82百万円の支出（前年同四半期は5億24百万円の支出）となりました。前年同四半期比で、原材料又は商品の仕入れによる支出、人件費の支出、法人税等の支払額などが減少したものの、前連結会計年度に新規出店した店舗の経費増などにより、その他の営業支出が12億16百万円（前年同四半期は10億67百万円）に増加したこと、営業収入が27億89百万円（前年同四半期は28億42百万円）に減少した結果です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1億38百万円の支出（前年同四半期は1億64百万円の支出）となりました。事業活動にかかる固定費の見直しなどにより敷金及び保証金の回収による収入が増加したものの、レンタル用ティアラなど有形固定資産の取得による支出などが増加した結果です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億31百万円の収入（前年同四半期比59.1%減）となりました。長期借入れによる収入および短期借入れによる収入などによる結果です。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く主な事業環境であるブライダルジュエリー市場は、企業間競争の激化と国内景気低迷により、厳しさが今後も予想されますが、当社グループの業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性や、先駆的な施策により、景気の影響を受けながらも、相対的に堅調な業績を見込んでいます。

なお、急激な国内景気の悪化により、提携先企業の倒産やウェディング情報誌の廃刊による集客減少の可能性など、減収リスクが潜在しますが、民間調査機関の予測によると、平成22年以降の宝飾品小売市場規模は、経済環境の緩やかな回復を受けて平成25年頃まで増加していくものと見込んでおり、また、ブライダルジュエリー市場における当社のシェアは継続的に増加していることなどから、中期的には、当社の成長軌道は維持できるものと判断しています。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、ブライダルジュエリー事業を中心に、当社グループの各事業・各店舗の特長を最大限に生かした販売促進・広告宣伝活動を行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上を目指していきます。

また、事業活動にかかる固定費の見直しなど、今後も引き続き、全社的な経費削減運動を推進していく予定です。

当期においては、“工夫”をテーマに全役職員が業務改善運動に参画し、業績の向上に努めています。

ウェディングプロデュース事業を展開する株式会社トゥインクルスター（100%連結子会社）の業績は、経費の削減をはかるとともに、営業体制の強化、インターネットを活用した集客力の強化、新規提携先の拡大などにより収入増が期待されることから、通期での黒字化を見込んでいます。

その他、上記以外の新規事業、M&Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

以上により、当社グループは、ブライダルジュエリー業界における優位性をさらに強化し、収益の最大化に努めていきます。

平成22年3月期の業績予想（連結、個別）につきましては、平成21年5月11日に公表した「平成21年3月期 決算短信」における当期業績予想（連結、個別）から変更はありません。

※ 本資料の上記の予想は、発表日現在において、入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(固定資産の減価償却費の算定方法)

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①会計基準等の改正に伴う変更

該当事項はありません。

②①以外の変更

(追加情報)

重要な引当金の算定方法の変更

退職給付引当金

当社は、従業員数の増加に伴い、当第1四半期連結会計期間より退職給付にかかる処理をより適正に行うため、退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更しています。

この変更に伴い、当期首における退職給付債務について算定した簡便法と原則法の差額67,832千円を特別損失に計上しています。

この結果、従来の方法によった場合と比較して、当第1四半期連結会計期間の営業損失および経常損失が1,178千円減少し、税金等調整前四半期純損失が66,654千円増加しています。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	614,794	905,426
受取手形及び売掛金	520,134	591,468
商品及び製品	4,959,569	4,882,648
前払費用	102,500	103,469
繰延税金資産	12,515	20,363
その他	182,136	168,757
貸倒引当金	△17,129	△17,987
流動資産合計	6,374,520	6,654,145
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	994,891	1,006,498
車両運搬具（純額）	224	244
工具、器具及び備品（純額）	660,692	566,000
建設仮勘定	—	2,381
有形固定資産合計	1,655,809	1,575,125
無形固定資産		
ソフトウェア	30,564	24,908
電話加入権	5,504	5,504
無形固定資産合計	36,068	30,412
投資その他の資産		
長期前払費用	43,633	46,838
敷金及び保証金	1,080,943	1,092,574
繰延税金資産	71,449	45,989
その他	6,947	6,093
投資その他の資産合計	1,202,973	1,191,496
固定資産合計	2,894,852	2,797,034
資産合計	9,269,372	9,451,179

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	320,714	356,092
短期借入金	1,715,071	1,615,080
1年内返済予定の長期借入金	282,720	200,704
未払金及び未払費用	411,233	423,061
未払法人税等	14,127	184,263
前受金	271,718	223,656
その他	75,639	58,529
流動負債合計	3,091,223	3,061,388
固定負債		
長期借入金	436,932	319,438
退職給付引当金	171,255	93,496
長期未払金	111,980	120,237
固定負債合計	720,167	533,171
負債合計	3,811,391	3,594,559
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,137,460	2,540,743
自己株式	△70	△70
株主資本合計	5,451,775	5,855,058
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△67	△589
為替換算調整勘定	6,272	2,150
評価・換算差額等合計	6,205	1,561
純資産合計	5,457,980	5,856,619
負債純資産合計	9,269,372	9,451,179

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	2,700,775	2,639,834
売上原価	882,677	859,021
売上総利益	1,818,098	1,780,813
販売費及び一般管理費	1,754,793	1,934,946
営業利益又は営業損失(△)	63,305	△154,132
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	440	456
営業外収益合計	441	456
営業外費用		
支払利息	7,744	8,614
為替差損	1,602	662
その他	200	4
営業外費用合計	9,547	9,281
経常利益又は経常損失(△)	54,199	△162,957
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,499	1,334
役員退職慰労引当金戻入額	1,500	—
特別利益合計	2,999	1,334
特別損失		
固定資産除却損	8,283	—
過年度退職給付費用	—	67,832
特別損失合計	8,283	67,832
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	48,915	△229,456
法人税、住民税及び事業税	7,775	8,028
法人税等調整額	21,775	△17,966
法人税等合計	29,550	△9,938
四半期純利益又は四半期純損失(△)	19,364	△219,517

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	2,842,024	2,789,457
原材料又は商品の仕入れによる支出	△1,264,447	△982,666
人件費の支出	△707,593	△695,033
その他の営業支出	△1,067,684	△1,216,270
小計	△197,700	△104,513
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△8,395	△8,777
その他の収入	2,388	456
その他の支出	△205	△4
法人税等の支払額	△320,347	△170,159
営業活動によるキャッシュ・フロー	△524,261	△282,998
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△98,070	△141,111
無形固定資産の取得による支出	△992	△9,324
敷金及び保証金の差入による支出	△65,078	△1,242
敷金及び保証金の回収による収入	234	12,692
その他	△591	24
投資活動によるキャッシュ・フロー	△164,497	△138,960
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	600,000	100,000
短期借入金の返済による支出	△195,017	△14
長期借入れによる収入	100,000	250,000
長期借入金の返済による支出	△24,392	△58,747
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△159,838	△159,987
財務活動によるキャッシュ・フロー	320,750	131,250
現金及び現金同等物に係る換算差額	△90	75
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△368,098	△290,631
現金及び現金同等物の期首残高	1,139,525	905,426
現金及び現金同等物の四半期末残高	771,426	614,794

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高および営業損益売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,610,055	90,720	2,700,775	—	2,700,775
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	191	191	△191	—
計	2,610,055	90,912	2,700,967	△191	2,700,775
営業利益又は営業損失(△)	65,776	△2,471	63,305	—	63,305

当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
I 売上高および営業損益売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,573,598	66,236	2,639,834	—	2,639,834
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	333	194	528	△528	—
計	2,573,932	66,430	2,640,363	△528	2,639,834
営業利益又は営業損失(△)	△148,764	△5,367	△154,132	—	△154,132

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘

3. 「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」に記載のとおり、当第1四半期連結累計期間より、当社の退職給付債務の算定方法を簡便法から原則法に変更しています。これによるセグメント情報に与える影響は軽微です。

〔所在地別セグメント情報〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

〔海外売上高〕

前第1四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日）および当第1四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。